

図)。

さらに、17時20分(写真2の(5):←B)に丹後半島の850mbの対流圏下層風のぶつかる地形突出部風上側に、小さなうずが発生している。これは藤原(1967)が、うず状じょう乱の発生は北陸不連続線と関連し、またエコー型の変化がよく観測されるのは丹後半島から能登半島西岸までの海上であることを指適しているのと一致している。いずれにしても、地形突出部の風上側は、うず発生の好条件の一つになっているようである。

あとがき

今回は、とくに高気圧性循環をもつうずの解析を中心に述べてきた。

今後は、一般場が、どのような条件を充たしたとき、うずができるかということについて調査をつづけていきたい。

なお、この調査にあたって、本庁予報部電子計算室の

立平良三技官のご指導をいただき、また、福井地方気象台の深津林、服部満夫両技官にご助言をいただいたことに、深く感謝いたします。

文 献

- 藤原録郎, 1967: エコー配列型と降雪量分布, 天気, **14**, 256-261.
- Miyazawa, S., 1967: On Vortical Mesoscale disturbances observed during the period of heavy snow or rain in the Hokuriku district, J. Meteor. Soc. Japan, **45**, 166-176.
- 宮沢清治, 1968: 中小規模じょう乱解析, 北陸豪雪調査報告, 168-174.
- 新潟地方気象台, 1972: Anti-cyclonic なうず状エコー, 東管技術ニュース, **28**.
- 立平良三, 1962: 台風5907号の降雨帯の解析, 研究時報, **14**, 621-630.

北海道支部研究発表会のプログラム

昭和48年度第2回支部研究発表会を下記のプログラムにより実施しましたので報告します。

記

日 時: 昭和49年3月19日(火) 10時00分~14時30分
会 場: 北海道大学理学部3号館(新々館) 401号室
(4階)
座 長: 午前の部 播磨屋(北大理) 午後の部 中岡
(札幌気)

研究発表題目

- (午前の部) 10時~12時
1. 東南極みずほキャンプにおける地上気象観測
北大理 佐々木 浩
 2. 南極大陸における接地気層の乱流構造について
北大理 佐々木 浩
 3. 氷霧中の渦冷却霧粒, 氷晶および氷晶核の観測
北教大 桜井 兼市
 4. 渦状エコーと小低気圧について
北大理 山口 勝輔
 5. 道央地方の降雪の特徴とその予報
札幌気 七沢 謙

6. 雪エコーの動き(16mm 映画)

札幌気 七沢 謙

(午後の部) 13時~14時20分

7. 48年12月22日低気圧により起った日本海岸の塩雪害および電線着雪について
北電技研 栗原 正之 蒔田 孝
8. 札幌市の大気汚染と気象(第1報)
—昭和48年5月の札幌市の汚染質濃度と気象の関係—
札幌気 内田 英治 渡辺 正雄 丸山 栄三
今野 真悦 杉中 誠一 田村 和也
足立 崇
9. 札幌市の大気汚染と気象(第1報)
—昭和48年5月6日と14日の石狩平野の収束線の変動—
研究者 同上
10. 札幌市の大気汚染の気候学的解析
—汚染と気象要素の多変量解析
北大工 成田 脩